



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成22年(2010年)7月16日第44号

雨中の高校野球

高校野球の便りが聞かれる時季になると、毎年思い出す一つの試合があります。それは、甲子園初出場校どうしの対戦でした。選手たちは一生懸命にプレーしていましたが、大舞台で硬くなっていたので、凡ミスが多発して、正直に言ってあまり面白い試合ではありませんでした。ところが、そこに突然スコールのような雨が降ってきて、あっという間にぬかるんでしまったグラウンドで、意外にもだんだん良いプレーが見られるようになってきたのです。外野へ抜けると思われた打球を水しぶきを上げながら横っ跳びにキャッチ、打者も一塁にヘッドスライディング、そんなプレーが続き、観客席からは拍手もわくようになりました。

野球をするうえで、雨は間違いなく悪条件でしょう。しかし選手たちは悪条件に置かれたことで、大観衆に対する過剰な意識から脱し、本来持っている力を出すことができるようになった、といった感じでした。雨という悪条件は、結果として選手にとってはむしろ好条件として作用したようでした。学校の生活場面でも、雨の日の運動会の方が感動をもたらしたり、子どもたちの思い出に残っていたり、ということも多いのではありませんか。また、厳しい条件の中で育っている子どもが、そのことゆえ他者への本当の優しさを知っている、といったことを感じられたことはないでしょうか。

スポーツの話ばかりになって恐縮ですが、先日のワールドカップの日本代表チームは、直前の練習試合で4連敗を喫しましたが、大会の直前になってミーティングを持ち、本音を出し合うことで結束力を高めたことが今回の好結果につながった、と報道されています。その時にもしお互いの非難合戦のみに終始していればチームは崩壊していた、という危機的な状況だったそうです。

植物にもこのような話があります。ある種の果物は、実を大きく成らせるために、わざと収穫前に幹に傷をつけるのだそうです。果物は幹を傷つけられたことで却って生命力を増し、自分の種をつなぐために大きな実をつけるようになる、とのこと。そして最後にもうひとつ、幸せの象徴と言われる四つ葉のクローバーはどこに出現しやすいのかということ、人や動物にたくさん踏まれる場所の方ができやすい、ということです。

誰しも、自分の周りが常に理想的な状況である、などということはありません。私の弱い心は何でもすぐに周りの環境のせいにして、できないことの言い訳を用意してしまいます。

「あれがこうなっていないから・・・」「さえないければ・・・」そんな嘆き節ばかりではなく、悪条件を改善することが難しい時にそれを好条件として捉える考え方や、今の条件をどのように活用すれば力に変えることができるか、という発想を身につけたいものです。

(成瀬)



夏季休業中の研修

月日(曜)	午前		午後	
	研修名	場所	研修名	場所
7/21(水)	初任者研修(社会体験研修)	すこやかプラザ	初任者研修(社会体験研修)	すこやかプラザ
	情報基礎研修	教育センター	情報基礎研修	第十八中PC室
7/23(金)	理科教育研修(地学)	教育センター	理科教育研修(地学)	箕面方面
	ニューステージ研修	教育センター	生徒(生活)指導研修	青年の家いぶき2階
7/26(月)	技術・家庭科教育研修(技術) 1	教育センター	技術・家庭科教育研修(技術)	教育センター
			教育相談研修	教育センター
7/27(火)	ICT活用研修	教育センター	ICT活用研修	教育センター
			支援教育コーディネーター研修	教育センター
7/29(木)			教科・領域研修会(小国語)	教育センター
			人権教育研修	エトレ豊中6階
7/30(金)	情報基礎研修	第十八中PC室	情報基礎研修	教育センター
	小・中初任者研修 2	伊丹市(集合は豊中市役所)		
8/2(月)	情報基礎研修	教育センター	情報基礎研修	教育センター
8/3(火)	校園長研修会	教育センター	校園長研修会	教育センター
8/4(水)	教頭研修会	教育センター	教頭研修会	教育センター
8/5(木)	情報基礎研修	教育センター	情報基礎研修	教育センター
			技術・家庭科教育研修(家庭)	第十八中学校
8/6(金)	教育相談研修	教育センター	教育相談研修	教育センター
8/10(火)	ICT活用研修	教育センター	ICT活用研修	教育センター
			ニューステージ研修	教育センター
8/11(水)	ネットワーク担当者研修	教育センター	ネットワーク担当者研修	教育センター
8/12(木)			環境教育研修 1	教育センター
8/18(水)	情報活用研修	教育センター	情報活用研修	教育センター
8/19(木)			不登校対応研修	教育センター
8/20(金)	情報活用研修	教育センター	情報活用研修	教育センター
8/25(水)	豊能地区教育課程研究協議会	各施設	豊能地区教育課程研究協議会	各施設
8/26(木)	情報活用研修	教育センター	情報活用研修	教育センター
	学校事務職員研修会	教育センター		
8/27(金)	夏期教職員研修会	アクア文化 ホール	ニューステージ研修	教育センター
			情報基礎研修	教育センター
8/30(月)			障害児教育研修	教育センター

1：中学校初任者研修では7/26と8/12のいずれか選択。8/12は、理科技術職員研修を兼ねる。

2：小・中学校初任者研修 第19回 授業づくり 「プロジェクトアドベンチャー体験」

多くのみなさんのご参加をお待ちしております。
参加される研修については、それぞれの要項等をご確認ください。

今年の夏期教職員研修会は

本年度は、落語家 桂かい枝さんをお招きし、「かい枝の これぞ英語落語！～笑い異文化コミュニケーション～」と題してお話いただきます。

落語といえば、日本の古くからある芸能文化の一つですが、かい枝さんは、この伝統文化 R A K U G O のよさを世界に発信しようとお家族のみなさんといっしょにアメリカへ渡り、キャンピングカーで寝泊りしながら、様々な場所で落語をされてこられました。この異国の地でのご苦労は、当日のお話の中で伺うことができると思います。

さて、今回この研修で、

文化や価値観の異なる人びとに、自分の伝えたいことを伝えるには、何が大切か。

相手を引き込む話し方のコツとは何か。

ということを再認識してもらえたらと思います。

落語をとおして人と人がつながっていく。これはまさに、コミュニケーション力育成につながることであり、落語の持つすばらしい言葉の力をより多くの人に感じとってもらいたいと思います。

と き 8月27日(金)午前10時

会 場 アクア文化ホール

テーマ 「桂かい枝の これぞ英語落語！

笑いの異文化コミュニケーション」

講 師 落語家

桂 かい枝



子どもたちの力を伸ばす

学校掃除セミナー

日時：8月5日(木)13:30～

講師：(株)ダスキン

暮らしの快適化生活研究所

年間を通すと3000分になる掃除の時間。

上手く活用すれば、「段取り力」「協調性」等子どもたちの力を伸ばすことができます。

ぜひ、ご参加ください。

授業にいかそう、演劇の力

～コミュニケーション力の再生をめざして～

日時：8月10日(火)13:30～

講師：演出 蓮行さん 他1名

昨年度に引き続き、授業の中に演劇の力を取り込むことで、新たな授業のあり方を発見できます。誘い合ってご参加ください。家・俳優

子どもと情報機器の関係を考えるセミナー

6月26日(土)午後、教育センターで標記セミナーを実施しました。

『今どきの授業とは？ICTを活用した模擬授業』

電子黒板を活用した外国語活動と、インターネット上の教材や実物投影機を使った理科の模擬授業を市民に公開しました。

「自分が子どもの頃よりずっと楽しい授業になってきていると感じた」

「ICTを活用することで授業にくぎ付けになる」「映像がリアルに映

し出され理解の助けになる」といった声が聞かれました。終了後、電子黒板を自由に体験していただくコーナーには、たくさんの方が興味津々の様子で集まっておられました。



先生の手元の実験が大写しに

『親子のためのネット社会の歩き方セミナー』

コンピュータ教育開発センターから講師を迎えて、子ども、保護者それぞれにインターネット社会の危険性などについて学びました。子どもたちからは「むやみにサイトを開かない」「家族に相談する」といった感想が、保護者の皆さんからは、子どもとの意思疎通やルール決めの大切さを再確認した、といった声が聞かれました。

子どもの発音について

クラスに発音が気になる子どもはいませんか。

教育センターでは発音が気になる子どもに対して、はじめに次の確認をします。

器質的な問題がないか【難聴、口蓋裂、鼻もれ・鼻づまりなど】
 発音時の口形がゆがんでいないか【息がまっすぐ出ているかどうか】
 語音弁別ができていないか
 【よく似た音が聞き分けられるか・よく似た音の書き間違いがないか】

その後、発音の様子を詳しく観察します。普段、何気なく言葉を使って会話をしますが、発音の観点でみると口の中ではとても複雑な動きをしています。どのように発音しているのか、少し紹介したいと思います。

【音の作られ方】

音を作るための部位（唇、歯茎、上あごなど）と息の出し方（鼻音【な行】、破裂音【ぱ・ば行】、摩擦音【さ行】など）との組み合わせによって、音は作られています。

「か」は舌の奥部分を上げて、のどで音を作ります。

「さ」は舌先を上あごにあてず隙間を作り息を通します。

「ら」は発音してみてください、「た」や「だ」より少し舌を巻く感じです。

【気になる発音】

「か」「さ」「ら」行の発音でよくある例（年齢は獲得時期の目安）。

「か」行（3～4歳頃） かに たに

「さ」行（5～6歳頃） さかな たかな、ちゃかな、しゃかな

「ら」行（4～6歳頃） らいおん だいおん

「た」「ちゃ」になるのは舌先を上の前歯裏にあててしまっているからです。

正しい音をつくるためには、「か」行の発音ではガラガラうがいができるか、「さ」行ではストローが上手に使えているか、「ら」行では舌打ちができるか、などが目安となります。

また、一音ずつの発音はできているのに、文章や会話で表現する時には、次の音を作る準備が間に合わずに乱れることがあります。

発音が気になる子どもの言葉を聞いた時、言い直しを促すよりも、さりげなく正しい発音でその言葉を繰り返してあげる関わりが適切です。正しい発音を聞き慣れることも大切だからです。

「音の聞き分け」については次号で取り上げる予定です。

（小澤）

